

マダラシマゲンゴロウ *Hydaticus thermonectoides* Sharp

【選定理由】

生息地である貧栄養的な止水域という条件のある池が極端に少なくなり、生息域が限定されている。愛知県では2例の採集記録が知られるが、いずれも1960年代以前のもので、既知産地では生息環境が失われ、その後他地域からも含めて生息情報がないことから絶滅と判定した。隣接する三重県内では比較的生息地が多かったが、1990年代以降減少が著しく、安定した生息地は失われている。

【形態】

体長9～10mm。体は卵形。頭部は淡黄褐色で微細点刻を有する。前胸背は後縁が暗色であるが、全体淡黄褐色。上翅は淡黄褐色で小黑点を散布するが、両側、基部、翅端付近に黒点は少なく紋様状となる。体下面は赤褐色。肢は黄褐色で後肢はやや暗色。

【分布の概要】

【県内の分布】

美浜町のため池（1962～1964採集）、名古屋市守山区志段味（1959年採集）の記録が残っているのみ。

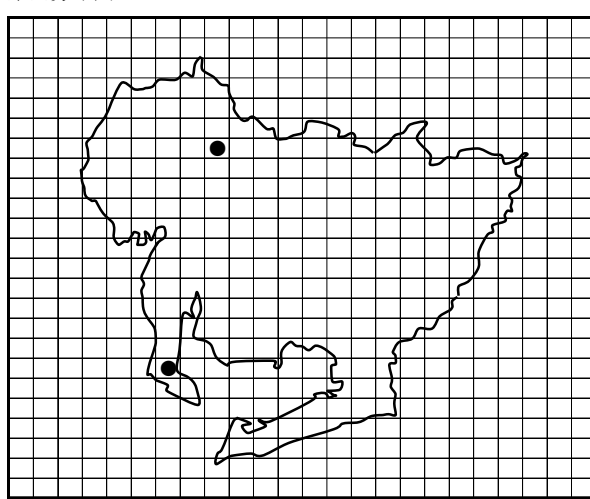
【国内の分布】

本州（長野県を基準産地として記載された種であるが、その後は愛知県と近畿地方に限られる）。

【世界の分布】

中国、朝鮮半島。

県内分布図



【生息地の環境／生態的特性】

水がきれいで冷たい貧栄養的な止水域で、ジュンサイの生育するような小さい池に生息している。生態については何も判っていない。かつて多産した三重県伊賀市では、丘陵地にある小規模で浅い池や棚田の最上部にある水域に生息地があった。

【現在の生息状況／減少の要因】

これまでの記録のある美浜町のため池は、農業用水のために使用されていて存在はしているが、周辺開発の影響が大きく現在の生息は確認できていない。また、名古屋市守山区についてもほぼ同様。宅地開発、水田の圃場整備等による環境改変により生息地が消失したことに加え、農薬散布、外来種アメリカザリガニによる影響が考えられる。

【保全上の留意点】

貧栄養的な止水域を保全し、三重県などに残存している個体群の回復・拡大による自然復元を待つ以外ない。そのためにも、アメリカザリガニ、ブルーギル、オオクチバスといった侵略的外来種の根絶が必要である。

【特記事項】

種の保存法で国内希少野生動植物種に指定されている。

【関連文献】

佐藤正孝, 1971. 知多半島の水生甲虫類. 日本昆虫学会東海支部報, (24): 2-3.
長谷川道明, 2002. 豊橋市自然史博物館所蔵森部一雄コレクションに含まれる重要な愛知県産甲虫類. 豊橋市自然史博物館研究報告, (12): 49-53.

(長谷川道明・蟹江 昇・戸田尚希)